



Higashi Sapporo  
Hospital's  
Newsletter MADO

October 2022 No.111

石谷理事長・院長 院内向け講演開催

## 医療技術部と がん相談支援(患者支援)センターへの期待 -Team Approachの再興-



The International Research Society of the SCPSC 理事長  
医療法人東札幌病院 理事長・院長

石谷邦彦

石谷理事長・院長の院内講演が、医療技術部とがん相談支援(患者支援)センターの関係職員向けに開催されました。

講演では、当院が4月より北海道がん診療連携指定病院の指定を受け、既存の患者支援部をがん相談支援(患者支援)センターに改編し新たな活動を行っていくこと、病院運営の未来に向かっての、いま一度のチームケアのあり方と自己実現(Well-being)について、さらには、がん緩和ケアの歴史と世界の現状についてのお話がありました。

また、これからの病院運営に関しても、日本のスタンダードではなく、グローバル・スタンダードを志向する重要性和、がんサポートコミュニティー(CSC)を中心とした支援の在り方についてのお話がありました。

今回の講演内容を職員で共有し、患者・家族に最善の医療とサポートが提供できるように精進していきます。



Higashi Sapporo Hospital  
医療法人  
東札幌病院

2022年10月発行  
発行責任者/病院長 石谷邦彦  
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35  
TEL.011-812-2311(代表)  
FAX.011-823-9552  
E-mail: info@hsh.or.jp  
HP: https://www.hsh.or.jp

## 講演

# 「医療技術部とがん相談支援(患者支援)センターへの期待」を 聴講した職員の感想をお届けします。

9月8日に、石谷先生による院内講演が開催されました。内容はバラエティーに富んだものでしたが、その中でもチームアプローチとWell-beingについて述べられたことに触れたいと思います。

当院は、がん専門病院の認可を受けており、標準治療と緩和ケアが行われております。緩和ケアは治療と並行して実施することが望ましいとされています。患者さん・家族は、病気の進行段階に応じてさまざまな苦痛(いわゆる全人的苦痛)を感じるようになります。その苦痛の緩和に対して、他職種が連携して関わっていく必要があると思います。チームアプローチをうまく働かせるには、それぞれの専門性を理解し、尊重しながら、患者さん・家族がその苦痛を緩和できるのか協働して考え支援していくことが重要だと思います。そのためには、他職種がフラットな関係で意見交換が行える場をもっと

作っていくことが今後の課題ではないかと感じました。

医療の専門職としてのWell-being(=自己実現)については、患者さん・家族に関わる上で、個として自律と自立をしていること、専門職として使命感を持つことが求められるとのこと。この意識を持った上で関わることで、支援するプロセスと得られる結果は、互いにWell-beingが高められるものになるかと思われます。

ただルーティン作業をしていくのではなく、それぞれの専門職としての価値を意識して、患者さん・家族にできることは何かを考え行動していくことで、病院全体の質の向上につなげていけるのではないかと思います。

がん相談支援センターMSW室  
MSW 杉野 香



十数年前にがん・終末期に関して東札幌病院で学びたいと思ってから、時間がかかりましたが、ご縁があり、2021年に入職することができました。これまで、神経難病、脊髄損傷、中枢神経障害、老年期(病院・老健)、終末期、がん等の身体障害領域で活動していました。

今回の講演会では、当院とホスピス・緩和ケアの歴史、石谷理事長の思い、今後の方向性について知ることができました。創立当時からグローバルな視点で日本の緩和ケアを牽引し、今現在も海外の病院・医療者と交流が深く続いており、他の病院・施設と違うと感じる部分を知ることができました。私がこれまで学んできた病院・施設では、一般的なノルマがあり、数字を考える

ことが普通だと思っていました。しかし当院は「やさしさ」という言葉を理念に掲げ、患者さんのみならず、家族や地域へも関わり、そして国際的なカンファレンスを主催し、世界的な動向を注視しながら進んでいることに、とても刺激を受けています。

作業療法士として、患者さんの人生に寄り添い関わるために何をしなければいけないのか、グローバルな視点で考え、東札幌病院のチームの一員として力を発揮できるように、今後も研鑽していきたいです。

リハビリテーション課  
作業療法士 石川美哉子

# 令和3年度東札幌病院業績

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

## 医局

### 英語論文

1. Sasaki T, Ikeda K, Nakajima T, Kawabata-Iwakawa R, Iizuka T, Dharmawan T, Tamura S, Niwamae N, Tange S, Nishiyama M, Kaneko Y, Kurabayashi M. Multiple arrhythmic and cardiomyopathic phenotypes associated with an SCN5A A735E mutation. *J Electrocardiol.* 2021 Mar-Apr;65:122-127. doi: 10.1016/j.jelectrocard.2021.01.019.
2. Nakajima T, Dharmawan T, Kawabata-Iwakawa R, Tamura S, Hasegawa H, Kobari T, Ota M, Tange S, Nishiyama M, Kaneko Y, Kurabayashi M. Reduced current density, partially rescued by mexiletine, and depolarizing shift in activation of SCN5A W374G channels as a cause of severe form of Brugada syndrome. *Ann Noninvasive Electrocardiol.* 2021 May;26(3):e12828. doi: 10.1111/anec.12828.
3. Tomomasa R, Arai Y, Kawabata-Iwakawa R, Fukuoka K, Nakano Y, Hama N, Nakata S, Suzuki N, Ishi Y, Tanaka S, Takahashi JA, Yuba Y, Shiota M, Natsume A, Kurimoto M, Shiba Y, Aoki M, Nabeshima K, Enomoto T, Inoue T, Fujimura J, Kondo A, Yao T, Okura N, Hirose T, Sasaki A, Nishiyama M, Ichimura K, Shibata T, Hirato J, Yokoo H, Nobusawa S. Ependymoma-like tumor with mesenchymal differentiation harboring C11orf95-NCOA1/2 or -RELA fusion: A hitherto unclassified tumor related to ependymoma. *Brain Pathol.* 2021 May;31(3):e12943. doi: 10.1111/bpa.12943.
4. Takahashi H, Rokudai S, Kawabata-Iwakawa R, Sakakura K, Oyama T, Nishiyama M, Chikamatsu K. AKT3 is a key regulator of head and neck squamous cell carcinoma. *Cancer Sci.* 2021 Jun;112(6):2325-2334. doi: 10.1111/cas.14911.
5. Chiavarina B, Ronca R, Otaka Y, Sutton R.B., Rezzola S, Yokobori T, Chiodelli P, Souche R, Pourquier D, Maraver A, Faa G, Khellaf L, Turtoi E, Oyama T, Gofflot S, Bellahcène A, Detry O, Delvenne P, Castronovo V, Nishiyama M, Turtoi A. Fibroblast-derived prolargin is a tumor suppressor in hepatocellular carcinoma. *Oncogene.* 2022 Mar;41(10):1410-1420. doi: 10.1038/s41388-021-02171-z. Epub 2022 Jan 14.
6. Yoshida K, Yasufuku I, Terashima M, Rha SY, Bae JM, Li GY, Katai H, Watanabe M, Seto Y, Noh SH, Yang HK, Ji J, Baba H, Kitagawa Y, Morita S, Nishiyama M, Kodera Y. International retrospective cohort study of conversion therapy for stage IV gastric cancer 1 (CONVO-GC-1). *Ann Gastroenterol Surg, Ann Gastroenterol Surg.* 2021 Oct 20;6(2):227-240. doi: 10.1002/ags3.12515. eCollection 2022 Mar.
7. Iwanaga M, Kawamura H, Kubo N, Mizukami T, Oike T, Sato H, Miyazawa Y, Sekine Y, Kawabata-Iwakawa R, Nishiyama M, Ohno T, Nakano T. Double-layer omics analysis of castration- and X-ray-resistant prostate cancer cells. *J Radiat Res.* 2022 May 20;rrac022. doi: 10.1093/jrr/rrac022. Online ahead of print.

### 国際学会(座長)

1. Li J, Nishiyama M. Gastrointestinal Cancer Immunotherapy Forum. 2021.5.22.(WEB Forum)
2. Nishiyama M, Park YE, Jiang Z. 9th International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology Part I: Update on Breast cancer study in Asia. JSCO 2021, 2021.10.23 (Yokohama, Japan)

### 邦文総説・著書

1. 大村東生、空閑陽子、三原大佳 「進行再発乳がんに対するCapecitabine、Cyclophosphamide併用療法の効果と治療中のQOL評価」 2021, 115-116. 第46回札幌市医師会医学雑誌

### 全国学会(一般演題、ポスター、ランチョンセミナー)

1. Imoto S, Ueno T, Takao S, Fujisawa T, Ishida T, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Saito-Oba M,

Kitagawa Y, Nishiyama M. Late recurrence is a favorable prognostic factor of oligometastatic breast cancer from a subset analysis of OLIGO-BC1. 78th Annual Meeting of Japanese Cancer Association, 2021.10.1.(横浜)

#### 国際学会(発表)

1. Wang K, Bi XW, Liu G, Ueno T, Takao S, Sim SH, Im Y-H, Im S-A, Ahn SG, Lee JE, Park YH, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Saito-Oba M, Kitagawa Y, Nishiyama M, Imoto S. Favorable prognostic factors of oligometastatic breast cancer: a subset analysis of OLIGO-BC1. ASCO Annual Meeting 2021 (Virtual Scientific Program), 2021.6.4.-2021.6.8.(Chicago, USA)
2. Ishitani K. Universal Health Coverage(UHC) and Palliative Care, JCA/UICC International session, 2021.10.2.(WEB Forum)

#### 地方会

1. 平山泰生 シンポジウム「CIPNマネジメント～厳しい現状を認識しよう～」 第3回日本緩和医療学会北海道支部会学術大会 2021.8.31.(札幌)
2. 岩山祐司、亀嶋秀和、長谷川格、大村東生 「乳房温存手術後に難治性乳糜漏を発症した1例」 第19回日本乳癌学会北海道地方会 2021.10.9.(札幌)
3. 大村東生、亀嶋秀和、九富五郎 「若年女性への乳がん教育の効果」 第47回札幌市医師会医学会 2022.2.13.(札幌)

#### 地方研究会・講演会

1. 大村東生 「乳がんについて」 札幌武蔵女子短期大学 2021.7.26.(札幌)
2. 平山泰生 「これだけは知っておきたい末梢神経障害のマネジメントについて」 第3回北海道がんサポーターケア懇話会 2021.7.29.(WEB開催)
3. 大村東生 「乳がん再発症例 エリブリンの治療効果について」 乳がん講演会 2022.1.19.(札幌)

#### 座長

1. 鳥本悦宏 SessionⅢ 免疫細胞療法・ゲノム医療の最先端「CAR-T療法の現状と未来」 第36回札幌冬季がんセミナー 2022.1.29.(WEB開催)

#### 会長

1. 平山泰生 第63回日本血液学会秋季北海道地方会

2021.9.11.(札幌)

#### 司会等

1. 大村東生 ワーキングサバイバーズフォーラム コーディネーター 2021.2.28.(札幌)
2. 大村東生 With You東京 あなたとプレストケアを考える会 ファシリテーター 2021.12.13.(東京)
3. 大村東生 UICC ワールドキャンサーデー ファシリテーター 2022.2.4.(東京)
4. 大村東生 乳がんWeb講演会 2022.2.14.(札幌)

### 歯科口腔外科

#### 英語論文

1. Shimizu T, Fujita N, Tsuji-Tamura K, Kitagawa Y, Fujisawa T, Tamura M, Sato M. Osteocytes as main responders to low-intensity pulsed ultrasound treatment during fracture healing. Sci Rep, 11(1), 10298, 2021. doi: 10.1038/s41598-021-89672-9.

#### 全国学会(ポスター)

1. 清水達哉、太子芳仁、水越孝典、石谷雄一、北川善政 「骨細胞は低出力超音波パルスによる骨折治癒において主に応答する」 第66回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会 2021.11.12~14.(千葉)

### 看護部

#### 講義・助言

1. 青田美穂 「終末期看護論: エンド・オブ・ライフケアの実際」 札幌保健医療大学 2021.4.23.(札幌)
2. 大串祐美子 「がん看護論: 化学療法における看護」 札幌保健医療大学看護学部 2021.5.7.(札幌)
3. 青田美穂 「バリアティブケア: 緩和ケア病棟でのケアの実際と多職種チームアプローチ」 札幌市立大学看護学部 2021.5.24.(札幌)
4. 大串祐美子 「看護概論」 日本医療大学保健医療学部看護学科 2021.6.29.(札幌)
5. 納谷さくら <JNAラダーレベルⅡ到達のための研修> 基礎から学ぼうがん看護「がん患者と家族の意思決定支援」 北海道看護協会 2021.7.7.(札幌)
6. 二井矢ひとみ 「成人看護援助論演習Ⅱ緩和ケアにおける終末期看護の実践」 北海道科学大学 2021.7.8.(札幌)
7. 大串祐美子 「成人看護学方法論Ⅳ: がん治療と看護」

北海道看護専門学校 2021.9.24. 10.1. 10.15.(札幌)

8. 青田美穂 「成人看護学方法論Ⅳ:終末期にある人と家族の理解 ①、②、③」 北海道看護専門学校 2021.10.22. 10.29. 11.4.(札幌)
9. 二井矢ひとみ 「成人看護学方法論Ⅳ(終末期看護)身体的ケア」「緩和ケアにおける精神的・社会的・スピリチュアルケア」「家族ケア」「死亡時の看護」 北海道医療専門学校 2021.10.22. 11.5. 11.12.(札幌)
10. 納谷さくら 成人看護学方法論Ⅳ 「終末期にある人と家族の看護」「終末期・緩和ケアにおける倫理」「死の看取りの援助」 北海道看護専門学校 2021.11.5. 2022.2.10. 2.18.(札幌)

#### 座長

1. 大串祐美子 一般口演看護学 がん看護「eポスター看

護学 チーム医療」 第59回日本癌治療学会学術集会 2021.10.23.(横浜)

### ヘルスケアクリニック光

#### 全国学会

1. 阿部衣美 「褥瘡、創傷管理研修」 第3回日本在宅医療連合学会大会 2021.11.27.(WEB開催)

#### 講義

1. 上出利光、阿部衣美 「札幌北楡病院緩和セミナー」 札幌北楡病院 2022.1.25.(WEB開催)
2. 阿部衣美 「経口薬(ラゲブリオ)の使い方および沖縄での対応に学ぶ」 日本在宅医療連合学会 2022.1.29.(WEB開催)

## 新任医師自己紹介

2022年10月に当院に着任した信岡医師を紹介します。

10月1日より東札幌病院の外科に着任しました信岡隆幸と申します。前任地の札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科では、上部消化管疾患(主に食道がん・胃がん)の低侵襲手術(腹腔鏡やロボット手術)を中心に19年間、担当してまいりました。大学病院という性格上、高い専門性と先進性を求められてきましたが、本当の意味での診断・治療から終末期までの総合的ながん診療に十分に携わっているとはいえませんでした。当院では各診療科の先生方や他の医療スタッフと共に、それぞれが専門性を発揮しながら積極的な診断・治療も施行しつつ、緩和ケアも併行していくような総合的ながん診療が望まれていると思います。急性期の手術はもちろん、緩和医療においても外科医と

して貢献していければと思っています。

また当院には札幌市を中心に全道から緩和ケアを求めて多くの患者さまが受診されていますが、長年、地域に根差した病院でもあり、がん診療以外の一般診療にも注力していきたいと思っております。

個人的には同門の外科の先輩や、学生時代に所属しておりましたスキー部の先輩や同級生をはじめ、大学病院勤務時代からお世話になっている先生が多く所属されており、心強く感じながら赴任することができました。

当院の理念であるやさしさに基づいた医療を提供できるよう、微力ながら貢献できるように、私自身も勉強していきたいと思っておりますので、よろしく願います。



外科部長  
信岡隆幸

## 第3回・第4回合同開催

# がん緩和ケアに関する

シンポジウム1  
4.27 Thu.  
08:00-12:00

### オピオイドとがんの痛み:進化するその科学と実践

座長: **Russell Portenoy** (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

副座長: 山蔭道明(札幌医科大学)

副座長: 下山直人(君津中央病院)

基調講演

“臨床における調和”最善の臨床を通して、利益を最大に損益を最小に

**Russell Portenoy** (HJHS Institute For Innovation in Palliative Care, USA)

序論

**Russell Portenoy** (HJHS Institute For Innovation in Palliative Care, USA)

オピオイド受容体:構造と機能、そしてその可塑性

**Christoph Stein** (Charité-Universitätsmedizin Berlin, Germany)

遺伝子多様性(変化性)とオピオイドの損益との調和について

**Pål Klepstad** (Norwegian University of Science and Technology, Norway)

科学的なオピオイド臨床応用の3事例:

オピオイド・ローテーション、突出痛への対応、メサドンの役割

**Eduardo Bruera** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1  
4.27 Thu.  
12:00-13:00

オンコロジーと緩和ケアの統合、その歴史と未来への方向性

**Stein Kaasa**

(European Palliative Care Research Center (PRC), Oslo University Hospital and University of Oslo, Norway)

座長: 照井 健(東札幌病院)

プレナリーセッション1  
4.27 Thu.  
13:00-17:00

### 臨床腫瘍学と緩和ケアの統合 - 最近の動向

オンコロジーと緩和ケアの統合:適切な患者のために、適正な時期に適正な介入を提供する

**David Hui** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 佐治重衡(福島県立医科大学)

血液悪性腫瘍の根治的治療と緩和ケアの統合について

**Thomas William LeBlanc** (Duke University School of Medicine, USA)

座長: 小船雅義(札幌医科大学)

免疫療法治療薬に伴う免疫関連有害事象

**Aung Naing** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 高橋孝郎(埼玉医科大学国際医療センター)

がんリハビリテーションと緩和ケア

**Jack Fu** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 辻 晃仁(香川大学)

イブニングセミナー1  
4.27 Thu.  
17:00-18:00

緩和ケアの将来に不可欠な要素 - 緩和ケア看護学

**Philip Larkin** (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長: 大串祐美子(東札幌病院)

ワークショップ  
4.27 Thu.  
13:00-17:00

<開催中止>

ご事情によりWilliam Breitbart先生の来日が困難となり、  
ワークショップは開催を中止いたします。

# 国際会議

事前参加登録締切

2023年2月28日(火)

シンポジウム2

4.28 Fri.  
08:00-12:00

## なぜ緩和ケアに スピリチュアル・ケアを組み込むことが必要なのか

座長：Christina Puchalski (George Washington University, USA)  
副座長：Betty Ferrell (City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA)  
副座長：渡邊知映 (昭和大学)

基調講演

専門職連携のスピリチュアルケアにおける教育及び臨床モデル：  
緩和ケアの不可欠な要素

Christina Puchalski (George Washington University, USA)

緩和ケアにおける不可欠要素としてスピリチュアルケアの統合を支援する  
Betty Ferrell (City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA)

スピリチュアリティと緩和ケア：最新エビデンスと今後の優先課題とは？

Karen Steinhauser

(Duke University School of Medicine and the Durham Veterans Affairs Medical Center, USA)

スピリチュアル・ケア専門家から見た緩和ケア

Anne Vandenhoeck (Katholieke Universiteit Leuven, Belgium)

実存的ないしスピリチュアルな苦痛を持ちながら、  
進行性や終末期の病いとともに生きる患者に対して、  
スピリチュアルで思いやりのあるケアを取り入れる

Marvin Omar Delgado Guay (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー2

4.28 Fri.  
12:00-13:00

医療、そして生と死における緩和ケア：その実存的意義

Sheldon Solomon (Skidmore College, USA)

座長：三宅 智 (土浦協同病院)

プレナリーセッション2

4.28 Fri.  
13:00-17:00

## 緩和ケアの臨床における実存的苦痛の要因とその影響

緩和ケアにおける実存的問題に対するリエゾン精神医学の役割

Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長：中村健児 (東札幌病院)

実存的脅威に直面する患者とのコミュニケーションについて

Peter Salmon (University of Liverpool, UK)

座長：大西秀樹 (埼玉医科大学国際医療センター)

実存的に苦悩する患者はいかに臨床医に影響を与えるか

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, French)

座長：清水 研 (がん研究会 有明病院)

「死と死に近づく過程」に関する医療と社会の論調とその緩和ケアへの影響について

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

座長：中川俊一 (Columbia University Medical Center, USA)

イブニングセミナー2

4.28 Fri.  
17:00-18:00

グローバルな緩和ケアの発展に向けて：国際的な政策過程を介した  
ケア・サービスと必須薬剤の利用促進についての提言

Joseph Clark (Wolfson Palliative Care Research Centre, University of Hull, UK)

座長：日下部俊朗 (東札幌病院)

プレナリーセッション3  
4.29 Sat.  
07:05-12:00

## 情報と伝達の技術が導入される緩和ケア (Technology-enabled palliative care)の現状と将来

座長：David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

序論

**David Hui** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

COVID-19パンデミック後のヘルスケア領域における  
第四次産業革命とメディカルデジタルトランスフォーメーション

**池野文昭** (Stanford University, USA)

ヘルスケアプラットフォームにおけるインテリジェンスの強化 - マイクロソフトの見解

**Keren Priyadarshini** (Microsoft Asia, Singapore)

遠隔医療、人工知能、デジタル治療など、これらはゲーム  
“ライズオブザロボット”か、それとも“心のこもったケアの未来”か?

**Mihir M. Kamdar** (Massachusetts General Hospital, USA)

組織的に導入された電子PROMs評価(ePROMs)システム  
COVIDパンデミック下のミラノ国立がん研究所における緩和ケア遠隔医療への有用性について

**Augusto Caraceni**

(Fondazione IRCCS National Cancer Institute, Chair of EAPC Research Network, Italy)

Technology-enabled palliative careの倫理的側面

**Ralf J. Jox** (Lausanne University Hospital, Switzerland)

Additional Remarks

**Jacob Strand** (Mayo Clinic, USA)

ランチョンセミナー3  
4.29 Sat.  
12:00-13:00

サポーターティブ・オンコロジー:米国の大手がん研究所における新しい専門領域としての活動状況

**Declan Walsh**

(Levine Cancer Institute, Editor-in-chief of BMJ Supportive and Palliative Care, USA)

座長：西山正彦(東札幌病院)

シンポジウム3  
4.29 Sat.  
13:00-17:00

## 安楽死・医師による自殺幫助と緩和ケア、その本質的な議論に臨む

座長：**Harvey Max Chochinov** (University of Manitoba, Canada)

副座長：Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

序論

**Harvey Max Chochinov** (University of Manitoba, Canada)

安楽死と自殺幫助、尊厳療法の可能性について

**Harvey Max Chochinov** (University of Manitoba, Canada)

医師が患者の死を早める事の倫理的、法的、そして専門家の適応状況

**Richard Huxtable** (University of Bristol, UK)

ゴルディオックスを失い、そしてカントを殺す：  
カナダの拙速なassisted death(幫助死)展開の代償

**K. Sonu Gaiind** (University of Toronto, Canada)

医学的な死への幫助はいつが適切なのか?

**Madeline Li** (Princess Margaret Cancer Centre, Canada)

完全  
同時通訳

第3回・第4回合同開催

## がん緩和ケアに関する国際会議

主催

医療法人 東札幌病院

会期

2023年4月27日(木)・28日(金)・29日(土)

第3回大会長

照井 健(医療法人東札幌病院)

会場

札幌パークホテル

第4回大会長

三宅 智(土浦協同病院)

〒064-8589 札幌市中央区南10条西3丁目

TEL 011-511-3131 <http://www.park1964.com/access/>

事務局

医療法人 東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35 TEL.011-812-2311 FAX.011-823-9552

E-mail: [office@sapporoconference.com](mailto:office@sapporoconference.com) <http://www.sapporoconference.com>



石谷理事長の  
スキー  
讃歌

その29

特別寄稿

日本山岳会名誉会員  
榎有恒ゆう こうさんのお話

芳賀孝郎

私は1959年から1966年まで神奈川県茅ヶ崎に住んでいた。

日本山岳会の集会、年次晩餐会の折、「榎さんのお帰りにお供するように」と加藤泰安先輩に言われて榎さんと茅ヶ崎までご一緒した。私はその時初めて湘南電車のグリーン車に乗った。私の気持ちは緊張していた。しかし車中での榎さんの訥々としたお話はいつも愉快で楽しかった。

ある時「君は札幌出身ならば北大の大野精七先生を知っているか」と聞かれた。私の父は、スキーの関係で先生にお世話になっていたので、「よく存じています」と答えた。すると榎さんがおもむろに話された。それは次の通りである。

榎さんは1921年、アイガー東山稜の初登攀に成功した。日本の登山家としての榎有恒がヨーロッパ登山界に初めて認められた。この頃、榎さんはスイス滞在中であった。ドイツ留学中の大野先生から手紙を受け取った。その内容はクリスマス休暇にスイスへ行き、榎さんとスキーを楽しみたいとのことであった。しばらくすると、もう一人の友人、パリのソルボンヌ留学中の藤島敏男氏から大野先生と同じような内容の手紙を受け取った。榎さんは、早速二人の友人へ、「スイス・サンモリッツスキー場でお会いしましょう」と連絡した。

榎さんは華やかな国際スキー場・サンモリッツのスキーコースを滑り降りた。コースを見上げていると、さえない服装のスキーヤーが榎さんのところへやってきた。その人は大野先生であった。お互いに再会の喜びの挨拶をかわした。大野先生は榎さんにゆっくりとした調子で話しかけた。「先ほどゲレンデでベレー帽を被り恰好よくマフラーを首に巻いた日本人スキー

ヤーに会ったので声を掛けた。すると私を見て、何かわからないフランス語でまくしたてられた。嫌な日本人がいるんですね」と言って別れた。

榎さんが別なコースを滑り降りたところで、今度はベレー帽とマフラー姿の藤島氏が突然目の前に現れた。藤島氏は榎さんとの再会の挨拶を交わした。そして榎さんに話をした。「ゲレンデで、日本人と思われるスキーヤーに出会った。その服装たるや見られたものではなかった。煙筒掃除夫が被るような帽子に、腰には日本手ぬぐいを下げていた。国際スキー場に合わないスタイルなのでフランス語で追いやった」と言った。



▲磐梯山にて、榎さんと私の岳父・三田幸夫



▲1957年、英国山岳会100周年記念祝賀会で、ハント会長と榎さん

榎さんは二人の話を聞いて、これは面白いことが展開すると頭に浮かんだ。ホテルに帰ると二人に電話をした。「今夜は私がご馳走するので私のホテルに来るように」と連絡した。すると二人はホテルにやってきた。二人が向かい合わせにセットされた席について、その途端二人はお互いに顔をそむけた。榎さんは簡単に二人の名前を知らせた。10分以上の沈黙が続いた。

榎さんは「今日は私の招待なので遠慮なく召し上がってください」と言った。榎さんは二人の困惑したしぐさが面白く、その様子を見ながら食事を始めた。榎さんは、二人がもう少し困っている姿を楽しみたい気

持ちがあったが、さらに5分以上の沈黙が続いたのを見て、二人に話しかけた。「慶応の同窓は直ぐに挨拶を交わしますが、一高・東大卒の人は、初対面の場合は顔を合わせても挨拶をしない風習ですか」と切り出した。するとおもむろに大野先生が「私は東大医学部を1918年に卒業しました。現在、ドイツ・フライブルク大学に留学中です。1924年に帰国予定で、その後は北大医学部に赴任する予定です」と自己紹介した。藤島氏は「私も一高・東大で法学部を1921年に卒業、その後日本銀行へ入行しました。現在、パリ大学、ソルボンヌに留学中です。大野さんは私の先輩です。大変失礼しました」と言って頭を下げた。

「横さんが、このように人をいじめ、困惑とみじめな様子を見て楽しめる趣味を持っているとは知らなかった」と藤島氏は、横さんに一本取られたことを嘆いた。その後は楽しく夕食を過ごしたという。

横さんは湘南電車の車中で楽しそうにお話をされた。「君も生涯にこのような人との出会いの機会があるだろう」と愉快そうであった。さらに横さんから「君が札幌へ行く用事があった折、ぜひ大野先生にお会いして、このサンモリッツでのスキーの話伝えてもらいたい」とお願いされた。

翌年の夏、私が札幌へ出張した際、札幌医大へ大野先生に面会したい旨を連絡したところ、大野先生と名誉学長室でお会いすることになった。先生にお会いすると「横さんのお話とはなんですか」と率直に聞かれた。私は横さんのサンモリッツスキー場での話を忠実に伝えた。先生は初め、渋い顔をして聞いていらしたが、やがて笑顔になり「横さんは人を困らせて喜ぶ趣味を持った人です」と笑われた。「よくぞ貴重な話を伝えてくれた」とお礼の言葉があった。私は横さんの伝言の責任を果たし、解放された気持ちで部屋を後にした。

その年の日本山岳会年次晩餐会の席で横さんにお会いした。横さんから「君のおかげで大野先生から丁寧なお手紙をもらったよ。よくぞ先生に伝えてくれた」とお礼を言われた。私はその時、横さんは「芳

賀が大野先生へ伝言することができるか」をテストしたのではないかと感じた。

後日、マナスル初登頂者・今西壽雄は帰国後の報告会で「第三次マナスル隊・横隊長はほんまに山のことを良く知っている人です」と称賛していた。この言葉を聞いて、横さんはたとえば「山」のようなお人柄で、やさしさと恐ろしさを兼ね備えた方と感じた。それに加えてサンモリッツのお話ではウイットとユーモアを持ち合わせる横さんのもう一つの面を見て、人間の大きさを知った。



▲1956年、マナスル登山隊長・横さん

註1.藤島敏男氏(1896年～1976年)

1919年に日本山岳会に入会し、機関誌「山岳」の編集に長く関わった。クラブライフを楽しみ、会員に辛辣な皮肉を飛ばし、へそ曲がりの精神を持つ人であった。会員は恐れていたが、藤島氏は山岳会へ独特の愛情を注ぎ、会員にクラブの楽しさを満喫させた。戦後の山岳会の再建に活躍され日本山岳会名誉会員となった。毒舌ぶりは山岳会では有名で、同じ毒舌の加藤泰安先輩も藤島氏にはかなわないと一目置いていた。

註2.大野精七先生(1885年～1982年)

東大医学部を卒業後、1921年～1924年の間、ドイツ・フライブルク大学に留学した。その間、勉学とシュバルツバルトのスキー場でスキー技術を習得した。帰国後、北大医学部に赴任し産婦人科を創立した。戦後、札幌医科大学の初代学長を務めた。名門北大スキー部の第5代スキー部部長となり25年間部長をされ、北大スキー部の活躍に貢献した。さらにスキーの普及と発展に尽くし、戦前の冬季オリンピックの札幌誘致にご尽力された。山スキーにも力を注ぎ、本格的山小屋を建設し、秩父宮様を山スキーにご案内された。1972年、札幌オリンピックの成功と今日の日本のスキー発展の功績を讃えて、大倉山ジャンプ競技場の麓に大野先生の顕彰碑が建立された。

註3.横有恒氏(1894年～1989年)

1914年、慶応大の鹿子木教授と共に日本山岳会に入会した。翌年、慶応義塾体育会山岳部を仲間と共に創立し、1917年、同大学法学部を卒業した。卒業後、アメリカ・コロンビア大学に入学したが、数カ月で退学し、兄が留学しているイギリスに渡った。ロンドンで日本アルプスの開拓者・ウエストンに会った。彼はスイスへ行くならグリーンデルワルトのザミエル・ブラントを紹介してくれた。横は、小学生の先生であり、ガイドの資格を持つブランドからドイツ語を習い、彼の仲間優秀なガイドのフリッツ・シュティリからロッククライミングの指導を受けた。スイスに滞在中の1921年にアイガー東山稜を初登攀する。帰国後、日本登山界へ近代登山技術、特にピッケルとアイゼンを使用した積雪期登山を指導した。1923年1月、立山松尾峠で吹雪に遭い、同行した板倉勝宣が遭難死した。1925年、日本山岳会初の海外遠征隊の隊長として、カナディアンロッキーの未踏峰アルバータ峰の初登頂に成功した。日本山岳会では二度も会長を務め、名誉会員となる。戦後は登山の普及に尽力し、日本山岳協会会長も務めた。1956年、第三次マナスル隊隊長を務め、8,000m峰の登頂に成功した。この影響で日本に一大登山ブームが起きた。その後文化功労者を受章した。

# 外来医師スケジュール

(2022年10月1日～)

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	1診 (内科初診/再診)	鳥本	日下部	平山/鳥本	鳥本	鳥本/小野(賢)	交代制
		2診	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	三原 (一般/腫瘍内科)	三原 (一般/腫瘍内科)	出張医 (内科初診/再診)
		3診 (消化器内科)	日下部	伊藤	渡邊	長岡	日下部	
		4診 (循環器内科)	高木	古谷	高木	秋津	秋津	
		5診	久村 (心療内科)	出張医 (整形外科)	出張医 (呼吸器内科)	平山/小野(賢) (一般/血液内科)	伊達 (呼吸器内科)	
		6診 (一般外科)	長谷川	信岡		信岡	長谷川	交代制
		7診		大村 (乳腺・甲状腺外科)	空閑 (一般外科/乳腺・甲状腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)	照井 (一般/糖尿病内科)	
		8診 (発熱者・必要時に対応)	照井	中村	三谷	照井	町野	
		9診			佐藤 (病をよく識る外来)		鳥本 (セカンドオピニオン外来)	
		放射線治療	堀	堀	堀	堀	堀	
		内視鏡	伊藤	長岡	佐賀	渡邊	安保	交代制
		腹部エコー			三谷			
歯科・ 歯科口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	交代制	

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午後	14:00～17:00	1診 (内科初診/再診)	三谷 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	三谷 (13:30～)	
		2診	中村 (一般/緩和ケア内科)	平山/小野(賢) (一般/血液内科)	町野 (一般/緩和ケア内科)	町野 (一般/緩和ケア内科)	中村 (一般/緩和ケア内科)	
		3診	長岡 (消化器内科)	渡邊 (消化器内科)	小野(薫) (一般/血液内科)	伊藤 (消化器内科)	佐賀 (一般/消化器内科)	
		4診	秋津 (循環器内科)	照井 (一般/糖尿病内科)	照井 (一般/糖尿病内科)	高木 (循環器内科)	出張医 (脳神経内科)	
		5診			井須 (整形外科)			
		6診 (一般外科)	長谷川★	久慈	信岡★	長谷川/信岡/ 久慈★	久慈	休診
		7診		大村 (乳腺・甲状腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)			
		8診 (発熱者・必要時に対応)	三谷	出張医	出張医	出張医	三谷	
		9診						
		放射線治療	堀/出張医	堀	堀	堀/出張医	堀/出張医	
		内視鏡	渡邊	佐賀	長岡	出張医	伊藤	
		歯科・ 歯科口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	

★6診午後の外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。

※外来受付時間 月曜日～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。

※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。

※禁煙外来(要予約) 木曜日・金曜日11:30～12:00 担当医師・秋津

※病をよく識る外来(要予約) 水曜日9:00～12:00 担当医師・佐藤

※セカンドオピニオン外来(要予約) 金曜日9:00～12:00 担当医師・鳥本

※石谷外来 火曜日9:00～11:00

※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

※放射線治療外来は、地下1階診察室です。



●交通のご案内  
地下鉄東西線「東札幌駅」より  
徒歩5分

#### 駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

#### ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です(以後30分50円)。

医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver.2.0)の認定を受けています。

■認定期間  
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構  
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG:Ver.2.0

Higashi Sapporo Hospital

## 医療法人 東札幌病院

〒003-8585  
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35  
電話 011-812-2311 (代表)  
FAX 011-823-9552  
E-mail: info@hsh.or.jp  
HP: <https://www.hsh.or.jp>

### 東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

### 東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。